

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報 おおづ

1
JAN. 2022

祝準優勝 Honda 熊本

今月の表紙

第92回都市対抗野球大会が昨年11月28日～12月9日、東京ドームで開催されました。町の代表で出場した「Honda熊本」は、19年ぶりに準優勝を収めました。(16ページ)

Public relations
OZU TOWN

広報 おおづ 2022 1

発行・編集 大津町・総合政策課
〒869-1292 熊本県菊池郡大津町大字大津 1233 番地
TEL.096(293)3118 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/> ※広報おおづは職場に設置して再生紙と補助剤・インクを使っています。

UD
FONT
見やすくて読みもちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

Clozu-up Ozu-jin

クローズアップ 大津人

昨年12月18日に行われた陣内食堂では、駄菓子屋やくじ引き、フードパントリー、お弁当の配布を行い、約100人が来場しました。



ゼロから1を作ることが大切 継承することが自分の役目



いまいけかずなり
今池一成さん(美咲野)

共生という言葉がある。地域で共に生活する意味である。社会福祉法人 三気の会で働く今池さんは、共生の意味を深く考えている。今回はその思いにクローズアップする。

昨年12月18日、町域活動支援センター「アンパ」で「陣内食堂」が開催された。陣内食堂はいわゆる「地域・子ども食堂」。コロナ禍での開催であり、飲食はできないが、多くの家族が、駄菓子を買ったり、くじ引きをしたりして、笑顔を見せた。障がい者就労支援施設である「Believe」でサービスマン管理責任者として従事する今池さんは、地域の希薄化が心配だと話す。「熊本地震の際、隣近所で助け合えるような密なつながりを口ごころから築いておくことが大切だと強く感じ、つながりのきっかけとして陣内食堂を考えました。アンパは障がいのある人が活動する場所、そこがなくなる場所になるなら。共生社会とはそんな社会だと今池さんは考える。

世の中には課題が多くある。多くの課題を一つずつ解決するために、人は努力する。しかし、彼は複数の課題を一つで解決しようとする。その答えの一つが「陣内食堂」だろう。彼の思いに共感し、大津町更生保護女性会陣内支部の皆さんも一緒に動いてくれた。話を聞いていると今池さんから、いろいろな夢と構想があふれてくる。彼の根幹にある「障がいのある人の支援」のために、多彩な視点でアイデアを生み出している。そして、ゼロから1を生み出し、それを100に増やしていくことが大事だと言う。そのためには、みんなで継承していくことが必要だと。障がいのある人が地域で生活できるように。福祉に関わる人がもっともって増やしてほしい。彼のアイデアが、地域の人や、障がいのある人の願いをかなえてくれるはずだ。

こゝろの声

あけましておめでとうございます。住民の皆さんが大津町を好きになってもらえるような広報紙を目指していきますので、取材や撮影で広報担当に遭遇したときは大津町の情報を教えてください。本年も「広報おおづ」をよろしくお願いたします。▼都市対抗野球大会では、Honda熊本が九州代表で出場。「町」の代表として出場したチームはHonda熊本だけでした。ユニフォームの袖に町の町章をかがけ町代表として戦う選手の方々のプレイトても感動しました。観戦していた町外の人にも大津町のことを知ってもらえるきっかけとなり、嬉しく思います。準優勝おめでとうございます。(S)

からいもくん便り 大津町総合情報メール

登録方法：ozutown@gw.ansin-anzen.jpに空メールを送信してください(スマートフォンの場合は件名に任意の1文字「あ」などを入力して送信)。



二次元バーコード

